

第9回遠野市史編さん委員会 会議録

日 時	令和元年5月29日（水）13：30～15：30	
場 所	遠野市立図書館 視聴覚ホール	
出席委員数	9人全員出席	
出席委員	岩崎真幸、大橋進、兼平賢治、熊谷常正、今野日出晴、斉藤利男、菅原伴耕、藤田俊雄、山影勝美	
市長	本田敏秋	
事務局	小向浩人	市民センター所長
	宮田秀一	市史編さん室長
	前川さおり	市史編さん室次長
	糠森千明	市史編さん室主任
	小島芳枝	〃
	熊谷航	〃
	菅原聡	〃

開会に先立ち委員に辞令を交付。

（進行：前川次長）

1 開会

2 市長挨拶

3 委員長、副委員長選任

- ・ 委員長に大橋進委員が選任された。
- ・ 副委員長は委員長の指名により、藤田俊雄委員が選任された。

4 報告（進行：大橋委員長）

(1) 平成30年度事業報告

- ・ 学校資料調査は非常に大切。遠野小学校以外でもやる予定があるか。
⇒ 近現代部会が立ち上がってから、計画的に行いたい。

(2) 令和元年度経過報告

質疑なし

(3) 部会設置及び委員について

質疑なし

5 協議（進行：大橋委員長）

(1) 令和元年度事業計画案について

（糠森主任 資料にもとづき説明）

- ・ 現代編は、多くの人の目を通して制作中。今後、原稿を70%くらいに圧縮しなければならぬのが課題。一方で、拾い漏らしがないかも心配である。

- ・ 現代編が先行して出るが、通史編の近現代との関わりはどうか。
 - ⇒ 時代区分は今後の議論。現代編が昭和40年代以降で、通史編の近現代は昭和40年頃までとする可能性もある。
 - ただ、現代編は通常に通史とは作り方も違うので、独立したものとして扱い、体裁も含め、通史編を拘束しない形にしたほうがよい。

- ・ 原始・古代・中世部会は、午前中に第1回部会を行った。原始・古代・考古グループと、中世・文献グループを作り、それぞれのグループで資料収集を行っていく。
- ・ 原始・古代・中世の資料編は、縦書き・横書きやカラー・モノクロの問題もあり、考古と文献の分冊にしたい意見がある。分量は全体で700ページくらいほしい。
- ・ 部会後のグループ会議で、中世・文献グループでは、全体の構成、大綱について議論し、主担当も決めた。次回の編さん委員会に合わせてグループで集まり、前日は寺院調査、二日目午前中にグループ会議を行う予定。
- ・ 原始・古代・考古グループでは、市内で発掘調査が行われた遺跡を中心に資料編をまとめていきたい。遺跡の評価を3ランクくらいに分け、合わせて市内の各時代の特徴をまとめていく。図面を掲載するためB5のサイズがほしい。

- ・ 中世と近世の境をどこにするか確認したい。
 - ⇒ 慶長5年の阿曾沼氏追放、滅亡までを中世で、それ以降を近世で扱う。

- ・ 鍋倉城は近世史で扱うか、考古で扱うか。
 - ⇒ 近世では領主のお墓の問題もあり、どう扱うか検討中。DVDを付けてはどうかという案が出て、そこに鍋倉城の調査報告書をPDFにして取り込むという話も出た。

- ・ DVDの活用ということについて、どう考えるか。
 - ⇒ 中世では紙媒体のほうが利用しやすいので、考えていない。
 - 近世では大型の絵図等もあるので、活用したい。
 - 予算的なこともあるので、次回の編さん委員会で再検討する。

- ・ 近世は3月に部会設置準備会を開催。時代区分は、慶長5年から明治3年盛岡藩の廃藩置県までを一つの区分として想定。兼平委員から粗々の章立てを出して協議し、担当を決めた。資料については、足元の博物館、図書館が持っているものを確実に取り込むということと、町場資料を何とか探し出して取り込んでいきたい。

- ・ 中世のほうの話の中で、市内の寺院の調査を行っていくとあったが、近世のほうでもダブるところがあると思うので、中世でやった成果を、近世のほうにも反映させていただけないか。
 - ⇒ 調査に入ったら、中世、近世とこだわらずに広く撮像し、両方で情報共有する。

- ・ 前の市史に書かれている八戸南部氏の歴史について、研究が進み、誤りも分かっているが、どう扱うか。
⇒ 近世のほうで軽く触れる。
- ・ 教育や林業史など、近世から近現代にかけて連続性があるものは、うまくつながるような形でやっていきたい。
⇒ 一人の人が二つの部会の委員になることも可能。
- ・ 全体で統一するものが、どこまでどう決まっているか確認したい。
⇒ 前回の委員会で、版型は、資料編がB5、通史編はA5。
ページ数は、資料編が600ページ以内、通史編は500ページ以内。
印刷は、資料編がモノクロ（一部カラー）、通史編はオールカラー。
- ・ 中世の資料編は、モノクロでよいのでページをたくさんほしい。
- ・ 資料編のスタイルは、各巻のすり合わせが必要かと思うが、どのように進めるか。
⇒ 編集の構成内容については、各部会のやりやすい方式を認めることにする。
- ・ 民俗編は、オールカラーでB5版を希望。
⇒ 次回以降の委員会に諮る。

(2) 市史に掲載する年表の取扱いについて

- ・ 現代編と通史編の近現代が重複する可能性があるなら、年表は年表だけで作ったほうが良いのでは。
⇒ 現代編を独立したものと考え、現代編の巻末には昭和40年以降の年表を参考的に掲載する。通史編に関わっての全体の年表については、別途検討する。

6 閉会